0/5
2
191

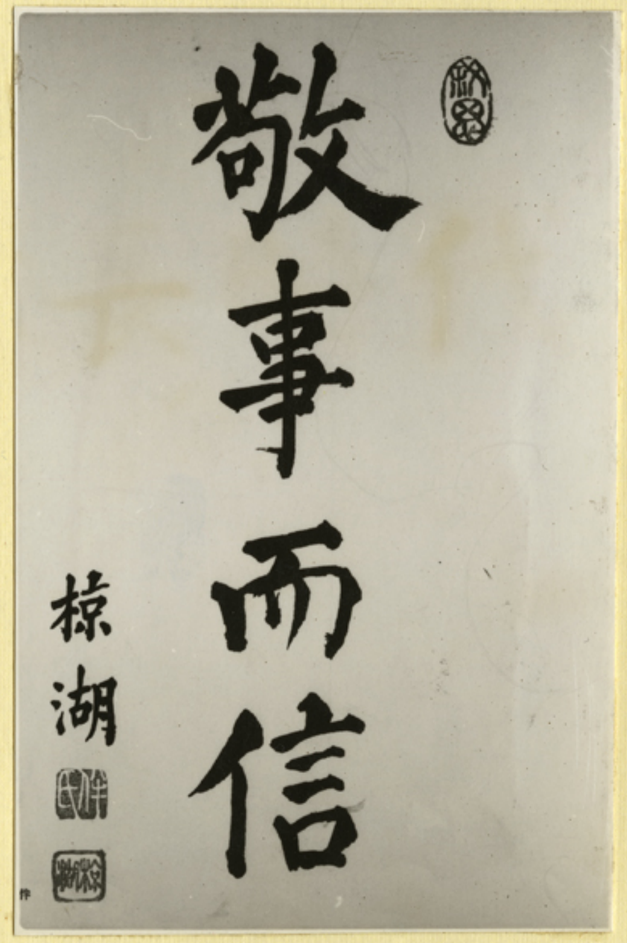
第二代 伴校長時代写真集

小樽商科大學附屬圖書館

第二代伴校長時代写真集

Rikkyo

第二代 伴校長時代写真集



1　伴校長筆蹟

2　伴校長の葉書

原岡講師

3

加藤講師

4

糸魚川講師

5

秋元助教授

6

德永教授

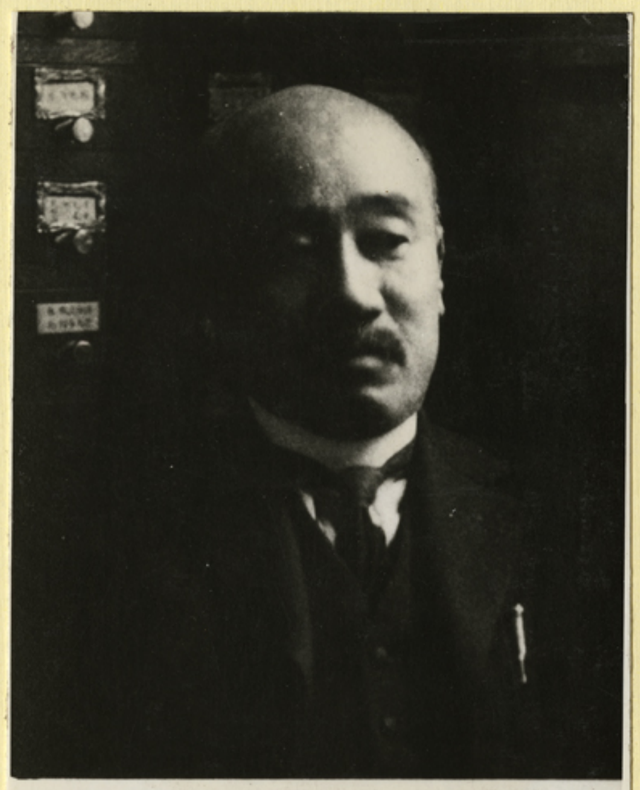
7

關益良教師

8

9

10 斉藤正先生



平尾教授

11

杉岡助教授

12

13

14

15 田上市之丞先生

16

橋本助教授

17

高橋助教授

18

十藏寺教授

19

若松教授

20

藤井教授

21

大谷助教授

22

三箇講師

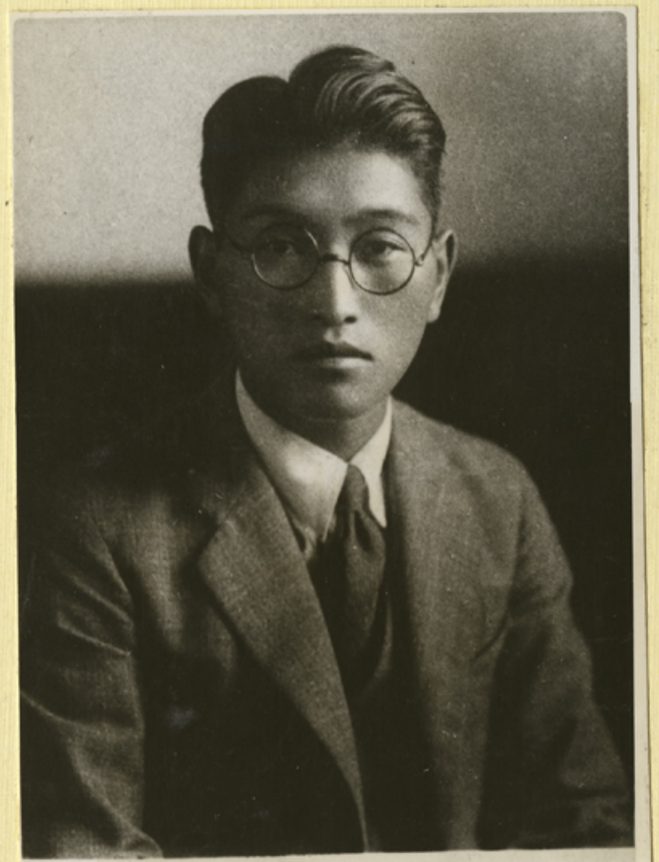
23

24 高崎徹先生

25　渥美静雄先生

高橋次郎教授

26



服部政一助教授

27

中野清一教授

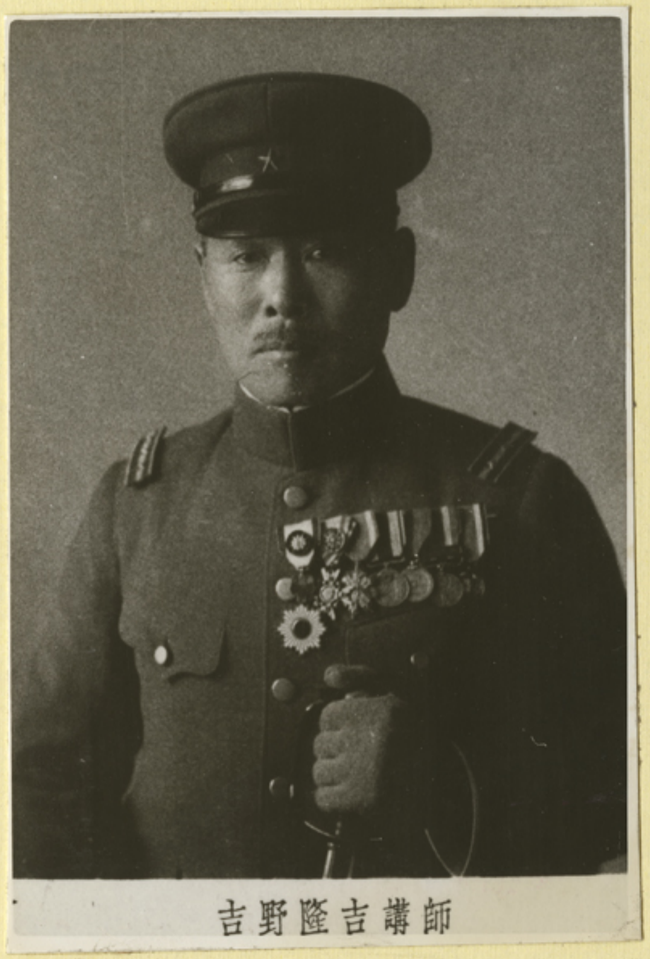
28

井上柴電教授

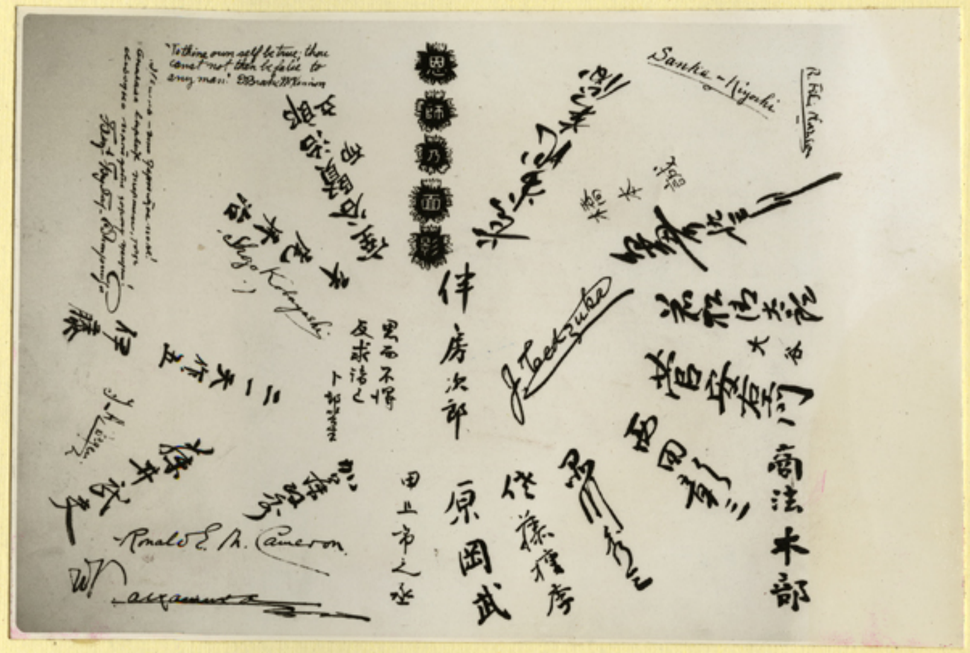
29

木村重義教授

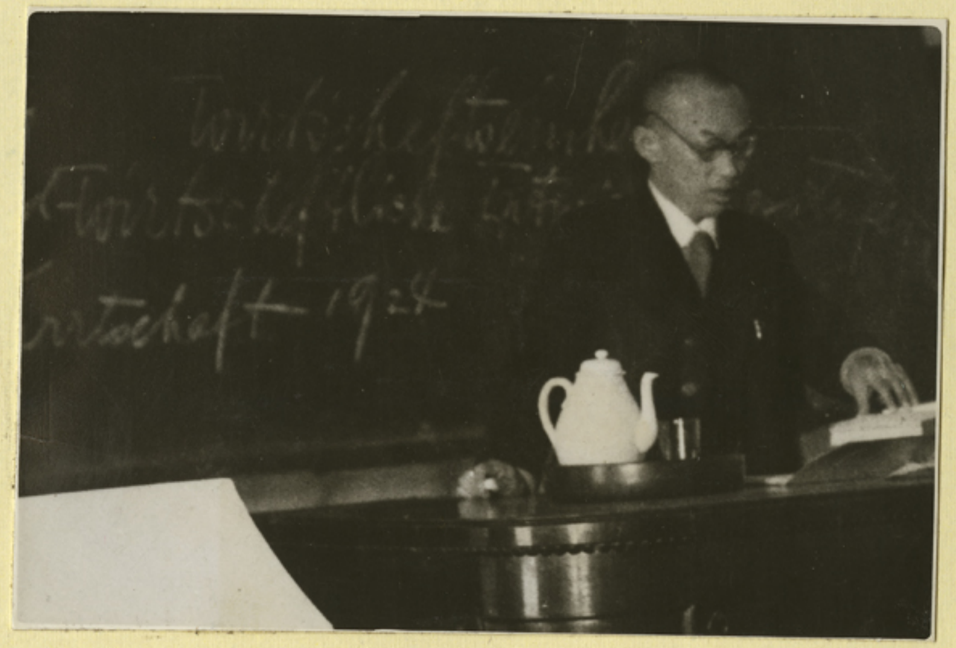
30



吉野隆吉講師


Sanshu-Nijyoshi
J. Toeksuke
Ronald E. A. Cameron
商法 本部
佐藤孝彦
原岡武
伊藤房次郎

32 教官寄せ書

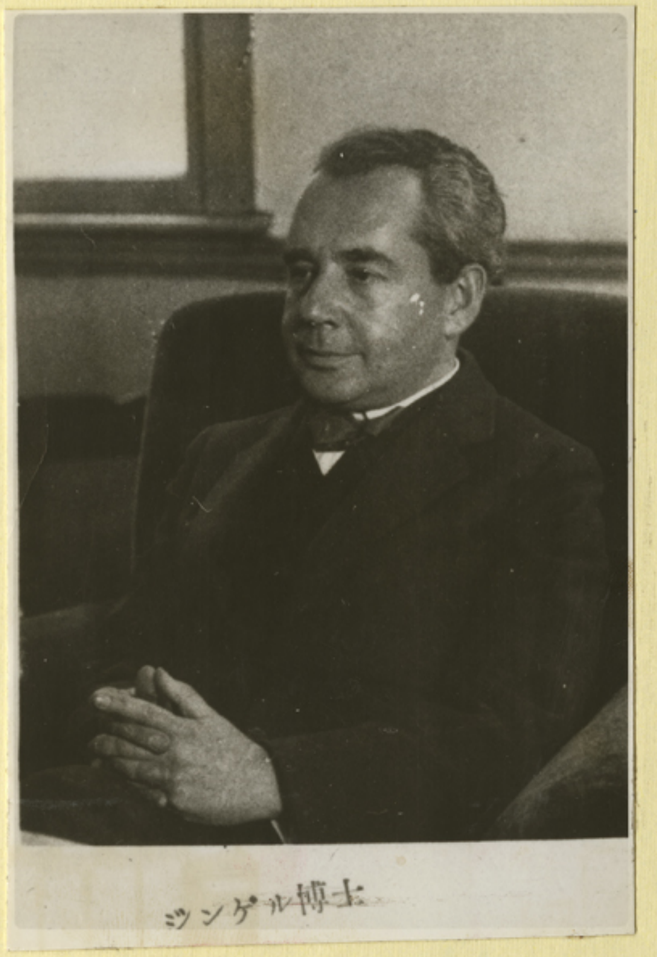


33　東京商大　福田徳三教授

34　京大　高田保馬教授

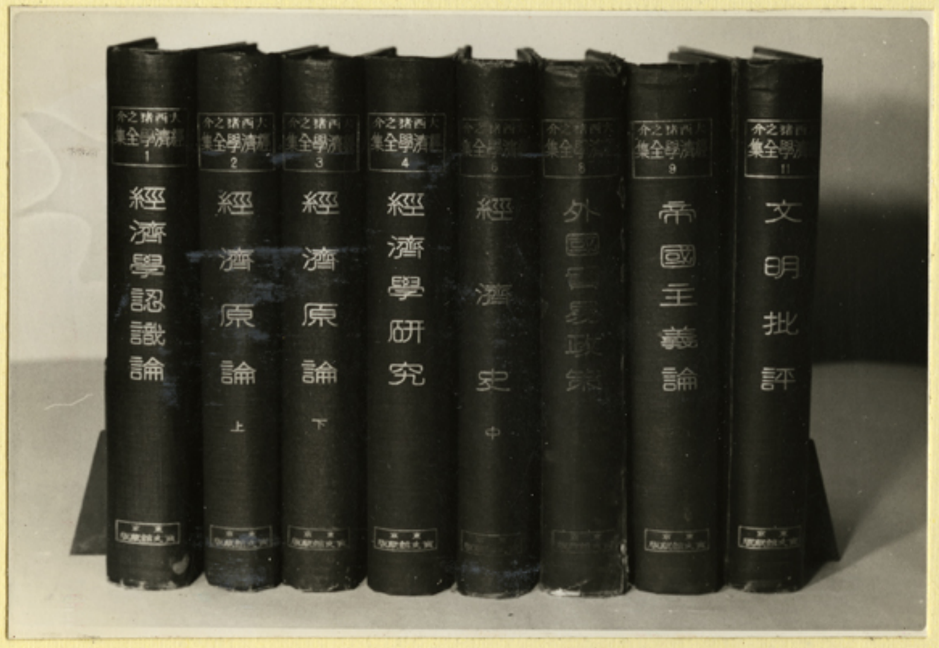
35 ウエスレイアン大学 Dr. ダッチャー教授

36 R. ヘンクル 先生



37　ハンブルグ大学 K. ジンゲル 教授

38　ハンス・シュナイダー 氏



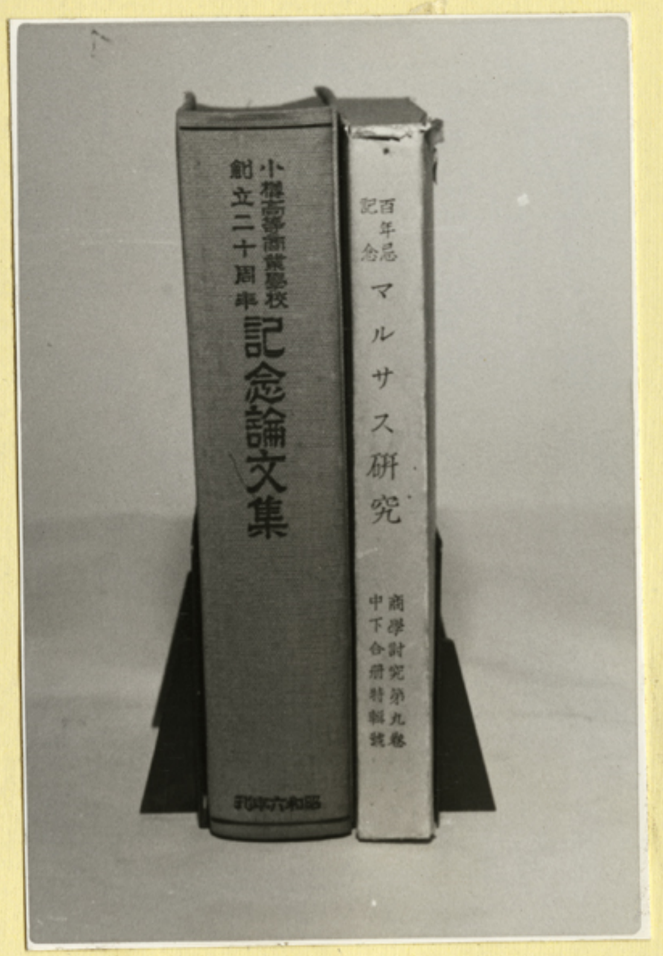
39 教官著作 1. 大西猪之介全集

40 教官著作 2.

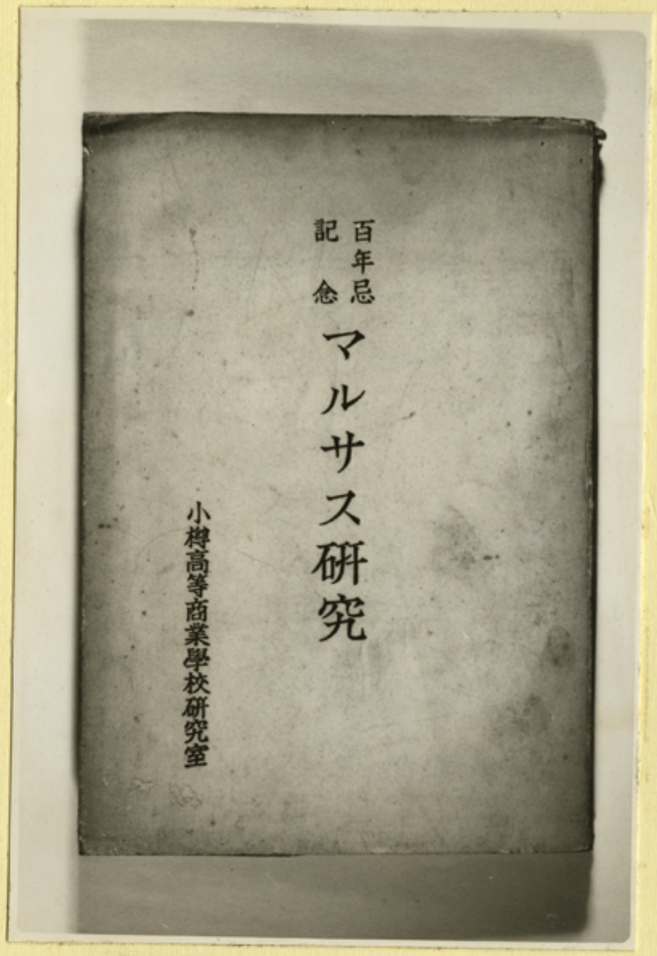
41 教官著作 3.

42 教官著作 4.

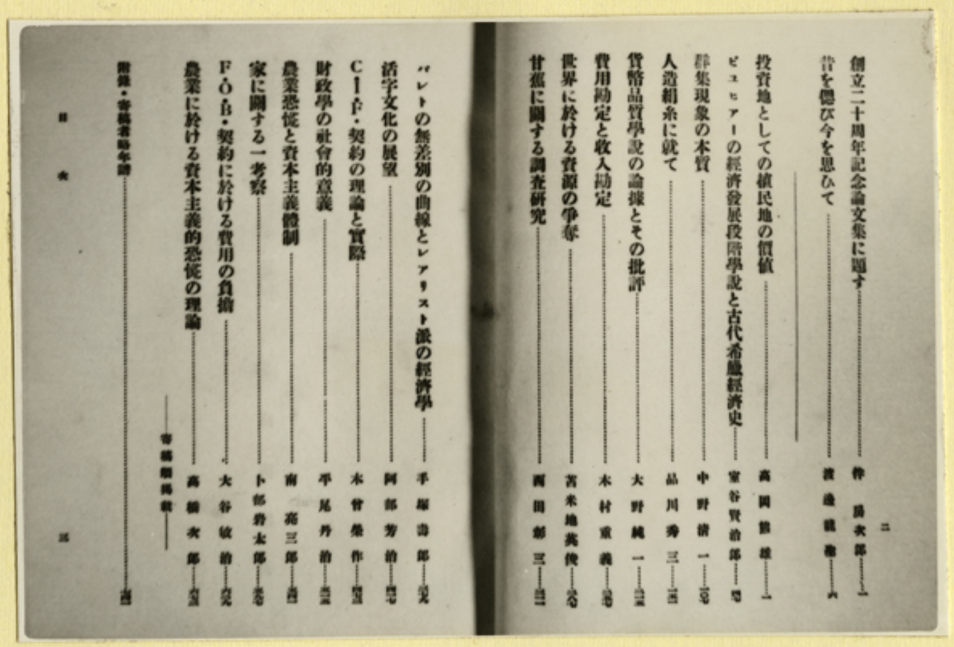
43 教官研究誌 1.



44 教官研究誌 2.



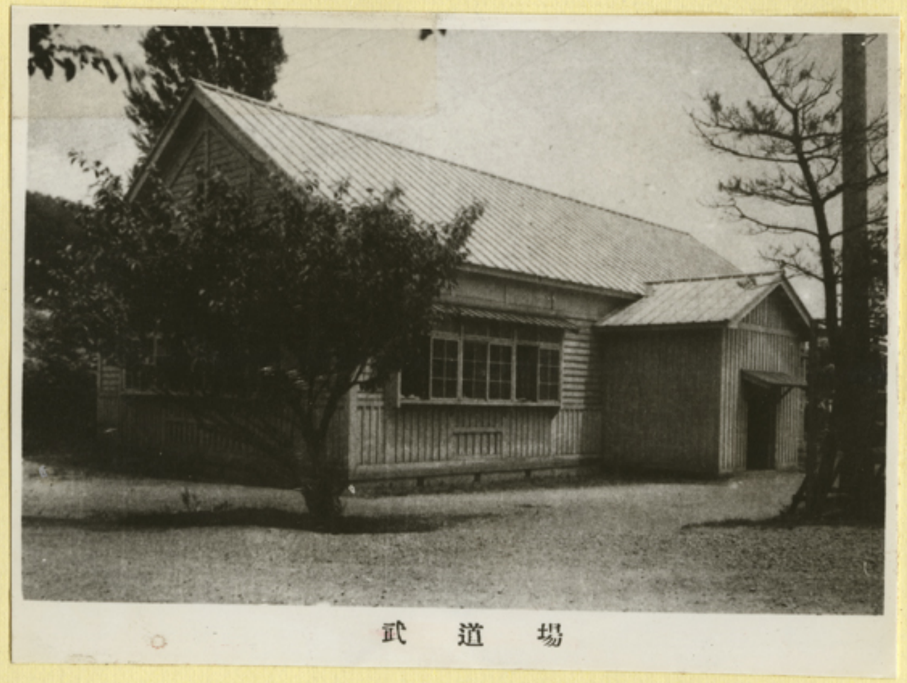
45 教官研究誌 3.



46 創立20周年記念論文集 目次

けふも校舎の
裏山で
鬨古鳥だろ
カッコウとないた
山は黄更の ふかみどり
空にやわらかい ちぎれ雲
庭のさくらの 消越し
海はしづかな 土用なぎ
けふも仲行く
船を見て
鬨古鳥だろ
カッコウとないた
小樽高等商業學校

48


武道場

49

50 商業実践室 1.

51 商業実践室 2

52 商業実践室 3.

53　日本経営学会　小樽大会（昭和9年7月）

54　山上グラウンド竣工式（大正14年11月）

55 軍事教練 1.

56 軍事教練 2.

57 軍事教練 3.

58寮 記念祭 1.

59 寮 記念祭 2.

60 寮の一室 (大正13年頃)

61　化学実験風景

62　スキー部　（大正10年頃）

63 新設のスキー シャンツェ（昭和6年12月）

64 海外派遣 四ツ谷選手

65　対北大予科戦壮行式（大正末年）

66　応　援　団

67 対予科戦 テニス

68 対予科戦 戦終って

69 マンドリン クラブ

70 外国語大会 入場券

71 学生時代の小林多喜二

社會改造家としての ウイリアム、モリスの思想と生涯

西野嘉一郎

[illegible]

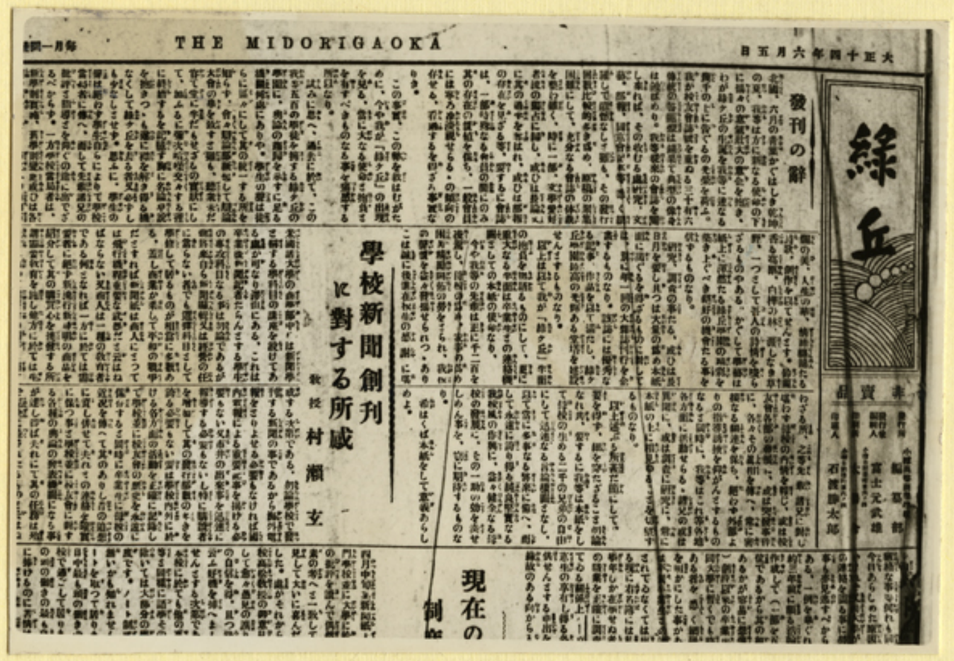
社會主義者としてのモリスの生涯

英國に Walthamstow に生れたモリスは青年期から壯年期にかけては詩文の創作と裝飾圖案の製作に生涯を捧げて Walthamstow の美しい莊園で靜にその生活を過つていた。しかしながらモリスの生涯である商業主義の製作品を見わたした時に、又現代生活の醜惡さを知つた時に彼の性格はこの商業主義の下においては民衆には藝術もなく又幸福もないと云ふ理由より藝術より社會主義へと移つてこれなかつたのである。

モリスは彼の社會主義を藝術に基礎をおき、社會主義者たるものは設備にして最も價値を有するものでなければならない。商業主義、ここの文化生活の華麗なる花を害し切り取つているものである。

72 校友会雑誌

73 研究所調査報告



74 緑丘新聞記事 1.

天下の視聽を聚めた
軍教想定問題の眞相

軍教なる文字を見れば小樽高商を連想せしめる程爾く左樣に有名になつた所謂軍教想定問題に關しては爾來數回に亘る「綠丘」にも何事も記するなく　徒に先輩諸兄の憂慮の種をなしてゐた事と思ひます一方流傳は流傳を生んでゐたことも目のあたり知つてゐたので眞相報道の責は充分に感じてゐました。然しかなり紛糾してゐたので當時に於て第三者にあらざる我々が下手な事を報道すれば却つて問題解決に支障を來す樣では更に累を重ぬる結果となり、又當局よりの注意もあり事實報道しようにも其の當時は內面的な事の眞相は何事も我々學生の知る所ではなかつたのであります。我々は唯默々として社會の噂傳には深い注意を拂ひつゝも穩健着實に其の歩を續けて來ました、そして先輩諸兄の憂を掃ふべき日の必ず近きにあるを信じてニュースの責を缺いで來たのであります。

然るに今やすべてが解決し去られた樣であり人の噂も七十五日の譬に漏れず具体的な小樽高商想定問題の火は消えて中央諸大學の反軍教の火の手と化してゐます、

最早改めてこゝに該事件を報道する必要はないかも知れませんが我々は一は我開校以來の大事件としてこゝに其の歷史的事實を留むべく他は日夜母校を案ぜられる諸兄の胸に答へんとする者であります（遠隔の先輩諸兄からは特に書を寄せられ我々學生の輕擧妄動のなき樣にとの懇切なる御訓誡に對しては後輩の等しく涙なきを得ない所であります、次に學校當局より一切の材料の提供を受け軍教想定事件顚末として掲載いたします

經緯

既に新聞紙上にて御承知の如く抑もの事の起りは十月十五日の演習の想定にあるのですが、當日は軍用鳴圖見方の實際演習が主たる目的で全校生は銃は勿論弾丸もせず唯小樽近郊の地圖を携帶したのであります、秩序立つた遠足と云ふ形で例の潮見台の高地に向つた譯であります。

愛宕愛所では鈴木教官は枝隊を止めて各自携行の地圖を擴げしめ、高度距離位置等林等を圖によつて回答せしめ懇切明了解を期したのであります、ガヲカ

十六日午前九時頃政治研究會小樽支部代表、小樽總勞働組合執行委員境一雄、小樽在住朝鮮人金相植外數名は校長出張不在中なるを以て首席教授中村和之雄を其の宅に訪ひ前日實施せる野外教練を以て不穩當不公正なりと爲し之に對する學校當局の聲明書を要求せり中村教授は教練教官及教務部主事に就て立案の次第等に就き調査の要あるを以て即答をなさず翌日午前十時を期して會見することを約したり。

同日午後七時中村教授宅に於て村相教務主任部主事木教練教官外

一、十月十五日午前小樽市の家屋は強め今や小樽市無政府主義者團滅せしめんと小樽軍人團は忽ち見臺高地の天險葉と化せしも時頓挫するの小樽高等商業學校庭に集合し支隊

三、

四、支隊長の下し敵は潮見臺高地ならざるものゝ如し支隊は直ちに東敵をカヲカ溯

二、

1、

2、

3、吉田秀夫外四名—眞榮町—鏡原

4、入江第三年中隊

5、爾全の中隊は本後方三百米を前ひ前進すへし

6、予は本隊の先頭

相

返し軍事訓練を駁撃九日校長歸校翌二十等と會見すべき旨を方より都合により延め來れり二十一日午頃代表者八名學校に見せり校長は先づ興この間に行はれたる つき相互誤解なる月十五日本校に於て外教練の想定中には列し聊か思慮を缺する旨を述べた然るに彼等は飽くま

THE MIDORIGAOKA

大西猪之介經濟學全集

待たれし全集成る
全卷十一
我國經濟學界の天才
大西猪之介氏の面影躍如
たる
かに學者
的良心の
一指導精
神を示す
もの
蓋し世上
溢る
格安全集
と自ら
其價値を
異にする
處である
乞ふ來つて
酌み盡
ども
故人の
高潔なる
魂の
靈に
かれよ
門を
叩け

豫約會員募集

◆配本方法 中込順次
◆入會金 金參圓（一時拂の場合は金參拾圓）
◆會費 毎月拂 金參圓 一時拂 金參拾圓
◆申込期日 昭和五年三月三十一日限
◆申込所 寶文館

「大西猪之介經濟學全集」發刊に關して謹告す

寶文館主 大橋久吉

編輯者 高島佐一郎 南亮三郎

全集內容目次

大西全集の刊行に際して

高島佐一郎 南亮三郎

76 緑丘新聞記事 3.

緑丘 (2) 昭和七年十一月廿五日 (金曜日)

受難の學生群

世相惡化 就職困難 の十字架を背ひ 過渡期の流れに

學生思想問題に 當局の取締嚴重

赤禍學生救濟機關 國民精神文化研究所

「卒業生の喜ぶ」 老舗小樽高商 古い暖簾物云ふ

問題の校友會改革案 會合を重ねる 其の後の經過

十一月十日— 非公式理事會

十一月十六日— 非公式理事會

あつりの 校友

77 緑丘新聞記事 4.

78　中央小樽駅前通り　（大正10年頃）

79　港　町　（大正10年頃）

80　花園町大通り　（大正10年頃）

81　天宮高架桟橋（大正10年頃）

82　花園町オト大通り　（大正末年頃）

83　妙見河畔　（大正末年頃）

名古屋日本ビール

名古屋日本ビール

日興證券